

「わくわく体験塾 ～若狭の歴史と自然で、学ぼう！遊ぼう！仲間と共に～」

1. 参加者

募集人数	応募者数	参加決定数	参加者数
32	45	32	32（福井27・滋賀1・京都3・愛知1）

2. 事業内容（概要）

◆ねらい

- ・若狭地域の歴史・文化にふれ、すばらしさに気づく。
- ・大自然での体験を通して、自然の偉大さを学ぶ。
- ・仲間との交流を通して、友情を育み、多くの思い出を作る。

◆期日・期間

平成30年11月23日（金・祝）～11月25日（日） <2泊3日>

◆主催

若狭の海湖山から「体験の風を起こそう」運動実行委員会
 国立若狭湾青少年自然の家・福井県立三方青年の家・福井県海浜自然センター
 福井県立若狭歴史博物館・若狭三方縄文博物館・福井県里山里海湖研究所

◆参加者分析

- ・地元福井を中心に45名（福井35・滋賀4・京都4・大阪1・愛知1）の応募があった。
- ・兄弟姉妹そろっての申し込みが多かった。
- ・できるだけ多くの参加者に参加してもらうために、本事業初参加の人を優先した。
- ・男子・女子を分けて当選確率が同じになる様に抽選して参加者を決定した。

◆企画のポイント

月 日	内 容	宿泊場所
11月23日(金)	若狭歴史博物館見学、加茂北古墳見学	国立若狭湾青少年自然の家
24日(土)	火おこし体験、野外炊事、ナイトハイキング 魚の解剖、魚の調理、ネイチャゲーム、 林業体験、年縞博物館見学、キャンドルサービス	福井県立三方青年の家
25日(日)	縄文博物館見学、勾玉づくり、活動発表会	

- ・6つの施設の特徴を生かし、歴史・文化・自然について学ぶために、その施設でしか体験できない活動を計画した。
- ・3日間で学んだことを、仲間や保護者のみなさんに伝える場として、閉講式前に活動発表会を設けた。

◆運営のポイント

- ・初めて出会う仲間やボランティアの大学生たちと親しくなれるよう、開講式後のアイスブレイクの時間を充実させた。
- ・仲間との交流を充実させるために、32人の参加者を5～6人×6グループとし、小グループでの活動の場面を設けた。
- ・子どもの様子を的確につかみ、充実した体験活動ができるよう、大学生ボランティア7名を6つのグループ単位でサポートするような体制を整えた。
- ・各施設の担当者が責任もって対応できるよう、活動内容ごとで主担当を変えながら体験活動を提供した。
- ・担当者の施設外の屋外で行う活動を増やして、できるだけ本物の文化や自然に触れる体験を設けた。

◆安全管理のポイント

- ・事前の健康調査票により、子ども一人一人の健康状態や緊急時の連絡先を把握し、担当職員で共通理解を図った上で、3日間の行程に臨んだ。
- ・病気やケガなどの発生に備えて、看護師を1名同行するよう手配した。

3. アンケート結果

(1) アンケート

参加者	4	3	2	1
事業全体をとおしてどうでしたか	84%	16%	0%	0%
この事業のプログラムはどうでしたか	78%	22%	0%	0%
この事業の運営はどうでしたか	66%	31%	0%	3%

4満足 3やや満足 2やや不満 1不満

(2) 参加者の声（事後アンケートより）

- ・年縞について分かった。
- ・たくさんの友達ができとてもうれしかったです。このわくわく体験塾に参加して良かったです。また、機会があったら参加したい。
- ・もう少し時間に余裕がもてるタイムスケジュールを組んだ方がいいと思います。
- ・とても3日間が短かったけれど楽しかったです。
- ・この体験を通してたくさんの仲間ができました。
- ・友達と仲良くなれた。
- ・昔の人の苦勞や生活、今にも続く歴史をたくさん知れた。
- ・ボラの大変さが分かった。
- ・時間を気にして動かないと、次が遅れるから、遅れる子に注意することを意識した。
- ・いろんなことを学べたし、たくさんの子とともだちになれた。
- ・特に料理をしたことが楽しかった。
- ・中学生が少なかった。
- ・この3日間でみんなといっしょに協力して良かったと思っただけ、楽しい思い出ができて良かったと思いました。
- ・友達が増えて良かった。
- ・ドッチボールをしたかった。（予定していたができなかったため）
- ・男が少ない。
- ・友達が意外にできることが分かり、うれしかったです。

4. 成果と課題

(1) 成果

- ・国体で開催時期が約1か月遅くなった分、気温・水温の関係で実施できない活動があった。しかし、11月下旬でも実施可能な活動内容を各施設で考えていただき実施できた。その結果、例年とは違う内容の活動を行うことができて良かった。
- ・それぞれの施設が自分の施設だけで活動するのではなく、他施設や屋外でも活動してもらうことができて良かった。（歴博→加茂北古墳・自然の家）（里研→福井ふるさと学びの森・三方青年の家）
- ・今年開館したてで注目されている年縞博物館の見学することができて良かった。
- ・ Cutter 活動が無く、参加学年や人数の制限がゆるくなり、参加者が28人→32人に増やすことができた。
- ・参加者の申込みの方法をインターネット申込ホームにしたことにより、参加者名簿などの事務処理が正確に早く行うことができた。1名だけがFAXでの申込みがあった。
- ・専門的な講師の方に指導していただいたので、子どもたちにも分かりやすく好評だった。
- ・わくわく体験塾の事務局の担当ローテーションを確認でき、新たに里山里海湖研究所に事務局の担当に入っていただいた。

(2) 課題

- ・活動場所8か所回って、13種類の活動を行った。移動等に時間もかかり、慌ただしいと感じた。毎年、全部の施設を利用するという形にとらわれず、隔年ごとに施設を利用するなど、

平成30年度 若狭の海湖山から「体験の風をおこそう」運動推進事業

行程やプログラムを見直していく事も必要になってきているのではないかと感じた。

- ・今回は天候がなきなき持ったので、予定していた活動をすべて実施することができた。体力・集中力が持つかも考慮して、プログラムの内容等をもう少しゆとりのもてるようにした方がよいのではないかと感じた。
- ・新しく取り入れた活動で予定時間がオーバーして、予定していた活動が出来なかったので参加者に不満を感じさせてしまった。時間に余裕を持った計画にする必要性を感じた。
- ・若狭湾青少年自然の家に比べて、三方青年の家のお風呂が狭いので入浴時間を長めにする必要があることがわかった。
- ・本年度は、「若狭の歴史と自然で、学ぼう！遊ぼう！仲間と共に」というテーマで取り組んだが、学ぼう的な活動に比重が高かった様に思った。来年度は、遊ぼう的なレクリエーションのような内容の比重を高めていくことが、子どもたち同士の交流に必要であるように思えた。
- ・活動発表会の時に流す映像をパワーポイントで作って流すには、手間がかかるので3日間を簡単に振り返る新しい方法を考える必要性を感じた。

【1日目の活動の様子】



【2日目の活動の様子】





【3日目の活動の様子】

